長井さんの「息子」

やまだ紫

「昔」というと自分も昔の中にいた事が
バレるのでいやなのだけれど
長井さんや青林堂を語るには
どうしても「むかし」が資料なので仕方ない。

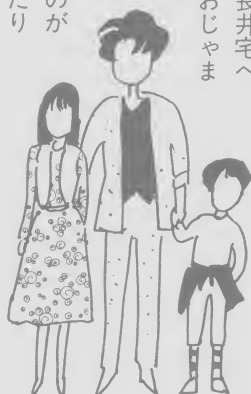
あ〜
どうも
どうも
いらっしゃい

長井さんは今年
「古希」を迎えられた。

初めてお逢いしたのは20年前だから
長井さんは 50歳 だったわけだ。

若い頃はね
僕も無茶したね
うん うん・・・

——と言うのは
昔からのログセらしい

うちの子供たちが小さい頃
阿佐ヶ谷の長井宅へ
泊りがけでおじゃま
したことも
幾度か
あった
銭湯へ行くのが
楽しみだったり

長井宅には今は亡き
ミーコというトラ猫
がいて
その他にも外から
あそびにくる猫や
外に住みついて
しまった母子猫などが
沢山いて
明子夫人がエサを

やったり病気の
面倒をみておられ
窓からいつも猫が
住まいを覗いて
いる————という
お宅なのでした

するとやにわに長井夫人しゃっきりと足どり高く大通りへと

すたこら

「そんなにのんで」とあとで明子夫人に叱られていた

あぶなかった……

――なんてこともありました。
青林堂三十周年おめでとうございます
「ガロ」という長井さんの息子は三十年にして独立し、とうとう長井さんも明子夫人も親業を引退される時が来たそうです。
本当にごくろうさまでした。それにありがとうございました。

月刊ガロ1991年１２月号掲載